

横浜市緑区民まつりで災害派遣活動をPR

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 平原 陸尉）は、10月19日（日）、県立四季の森公園（横浜市緑区）で行われた「緑と森のフェスティバル緑区民まつり」に参加し、募集広報を行った。

広報ブースには、御嶽山噴火や広島土砂災害に伴う災害派遣活動の写真パネルや非常用糧食などを展示した。2万人を超える来場者でにぎわう中、緑区長もブースを訪れ、興味深げに写真を眺めながら広報官に質問をする場面も見られた。区内で発生した台風18号による人的被害の記憶も新しく、「今回の台風被害を経験し、普段から自衛隊と連携を密にしていきたいことが大切だと強く感じました」など、ブースを訪れた多くの方々から自衛隊の災害派遣活動に対する理解や、感謝と激励の言葉が聞かれた。

市ヶ尾募集案内所は、「今後も、このようなイベントに積極的に参加し、地域の方々に防衛省自衛隊の活動を理解していただくとともに、募集成果の拡大につなげていきたい」としている。



支援をいただいた募集相談委員会の皆さん



広報ブース

初めての軽装甲機動車に子供達も大喜び

神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 荒木 3 陸佐）は、10月19日（日）、川崎市等の緑地で開催された中原区民祭に参加した。

中原区は、東京都のベッドタウンとして近年人口の増加が著しい地域であるため、自衛隊のPR重点地域と位置付け、広報活動に力を入れている地域である。イベント当日は、秋晴れの好天に恵まれ、自衛隊広報ブースには大勢の見学者が押し寄せた。広報ブースには、南極の氷や南極の石、災害派遣のパネルや非常用糧食を展示したが、最も賑わいをみせたのは、今年が初参加の軽装甲機動車であった。迷彩服を试着して軽装甲機動車をバックに写真撮影しようとする家族連れで長蛇の列ができ、昨年まで一番人気だった地震体験車と人気を二分する盛況さをみせていた。見学者からは、「性能は、装甲の厚さは」「凄い車両だね」「子供が戦車と言って喜んでですよ」等の質問や感想が寄せられていた。

川崎出張所は、「今後も、あらゆる機会を通じて親しみやすい自衛隊をPRするとともに、自衛隊に対する理解と募集基盤の拡充に努めていく」としている。



軽装甲機動車の前で記念撮影

